

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	福井大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	フクイダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	課題探求プロジェクトⅡ
	学部・研究科等名	国際地域学部
	担当教職員名・役職	木村 亮 国際地域学部教授 他
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	28
	受入企業等数	10
	受入企業等名	フクビ化学工業、福井キヤノン事務機等企业、および福井市、あわら市等自治体、福井県経営者協会等団体
	インターンシップの分類	5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ,9.その他
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	連携する企業や自治体等と共に特定の課題に取組み、課題解決の一助となる支援や提案を行うことを目標に活動するプログラムの中で、継続的なヒアリングや課題への取組みの他に3日間程度の就業体験を実施している。	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	3年次に現場の抱える課題へ具体的な取組む前提として、2年次においては連携先を取り巻く環境や連携先の業務の内容を知ることが目標としており、そのために連携先に対するヒアリングや文献等により調査を行うが、実際に連携先の業務を知ることが必要であり、夏季休業期間を中心に連携先に依頼して3日間程度の就業体験や課題の現場体験を行う	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2年次に、課題探求プロジェクトⅠ・Ⅱ(各2単位)を通年で実施する中で、Ⅰ(前期)の後半から連携先との打ち合わせを開始し、事前学習を踏まえて夏季休業中に就業体験や課題の現場体験を実施し、それを踏まえて連携先の事業内容や環境の調査や課題への取組みのブレ体験を行い、インターンシップへの単位付与はこの授業全体の評価として行う。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	大学で構築しているWebによる授業支援システムを通じて、インターンシップの内容について学生に報告させて、教員がこれを確認している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	課題解決に向け、必要な法規や情報、課題に関連する学問分野の内容について文献学習や教員、ゲストスピーカーのレクチャーによって学び、学生のテーマ及び連携先の決定後、これに関する予備的な調査や、インターンシップや後半の調査・分析・発案の内容やスケジュールについて連携先と打合せを行っている
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップは連携先や課題についてより具体的に調査する前提として行っており、後期に行われる授業において、学生は連携先と大学との往還を繰り返すことにより、3年次に学生が連携先での課題や連携先に関連して設定する課題を発見する。したがって、事後学習はこうした一貫した流れの中で実質的に行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	大学で構築しているWebによる授業支援システムは、チーム毎に会議室を設定し、就業体験を含め、学生個人の学習内容や連携先での打合せ内容、レポートの素材などを教員と学生が共有できる仕組みになっており、学生の提出物について教員が批評したり、これから学習すべき内容についてアドバイスしたりしている。

要素④	4-1. インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1. はい
	4-2. 該当する教育的効果を測定する仕組み	1. アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2. 以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	後期の授業において、インターンシップに続く連携先ヒアリングを踏まえて、学生がそれぞれ連携先や課題について理解したこと、また今後の調査事項を意識化させるために中間報告報告会を実施し、そこでの教員の批評を踏まえて2年次での成果と3年次での課題を明確化させるために期末に最終報告書を作成の上、連携先での評価を仰ぐ。
要素⑤	5-1. 一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1. はい
	5-2. 該当する実施期間	4. その他
	5-2. で「1. 連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2. で「2. 事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2. で「3. 複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2. 以外の実施期間の内容(記述欄)	夏季休業前に事前準備および打合せに2日、夏季休業期間中に3日間(連続または不連続)インターンシップ実施、後期に毎月1日程度相手先訪問と2日程度学内での学習を実施
5-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生が選択したテーマや当該連携先について事前に学習した上で、連携先を訪問し、練開先の事業の概要説明とインターンシップの内容についての打合せを行う。その上で3日間程度の就業体験や課題の現場体験を行って連携先や課題についての知識を肌で身に着けた上で、後期の活動に取り組む。	
要素⑥	6-1. 大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1. はい
	6-2. 該当する大学等と企業の協働取組の内容	7. その他
	6-2. 以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	学生がそれぞれテーマを抱えて連携先での就業体験に取り組むので、テーマに配慮したインターンシッププログラムを考えてもらうよう事前に連携先に依頼し、具体的な内容については学生と協議の上決定する。
	6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	例えば、観光をテーマとして自治体の観光関連部署で就業体験を行った学生は、地元の観光イベントへの参加や交通手段調査に取り組み、また地域ブランド商品をテーマとして自治体の産業振興関連部署で就業体験を行った学生は、当該部署での業務体験に加えて店舗訪問を行い、店舗での現場や店主を知ることで後期の活動につなげる取組みを行った。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/62.K0079J.pdf
問い合わせ先	大学等名	福井大学
	担当部署名	国際地域学部支援室
	担当者役職名	国際地域学部支援室長
	担当者氏名	中川 和治
	電話番号	0776-27-9936
	メールアドレス	s-gcssien@ad.u-fukui.ac.jp